

教育に関する事務の点検及び評価報告書
(令和2年度事業分)

令和3年9月

葛城市教育委員会

目 次

はじめに.....	1
1. 教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について.....	2
2. 教育に関する事務の点検及び評価について.....	2
3. 教育委員会点検・評価に関する有識者の概要.....	4
4. 教育委員会の運営及び活動状況.....	5
5. 葛城市総合計画に基づく政策体系について.....	11
6. 教育委員会事業評価シート.....	13
7. 点検及び評価のまとめ.....	61

はじめに

教育委員会は、都道府県及び市町村等に置かれる合議制の執行機関であり、教育委員会が自ら立てた教育行政の基本方針に基づき、教育に係る広範かつ専門的な事務を確実に実施することが求められます。

平成27年4月1日には「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正が行われ、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化が図られたところです。

この「教育に関する事務の点検及び評価」は、平成20年度より毎年、事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに公表しております。今年度は、令和2年度事業評価にあたり、前年度評価の実施後、改めて評価対象や評価方法に係る議論を重ね、その上で担当課ごとに自己評価に取り組みました。6月には、「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」により、各事業実務担当者に対するヒアリングを実施し、各事業についてご意見をいただきました。

有識者のご意見を受けて再度担当課ごとに来年度以降の事業方針を決定し、最後に教育委員より評価の総評をいただきました。

この報告書は、以上の成果を「教育に関する事務の点検及び評価報告書」としてまとめたものです。

1. 教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について

(1) 趣旨

葛城市教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。

また、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進する。

(2) 実施方法

- 1) 葛城市教育委員会の主要施策を対象として点検及び評価を行う。
- 2) 点検及び評価は、前年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向を示すものとし、毎年1回実施する。
- 3) 施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、有識者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行う。
- 4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」を置く。
(「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育委員会が委嘱する。)
- 5) 教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果をとりまとめた報告書を市議会へ提出する。また、報告書は公表するものとする。

2. 教育に関する事務の点検及び評価について

(1) 評価の対象

評価の対象は前年度の施策・事業(今回は令和2年度事務執行分)とし、葛城市教育委員会所管の学校教育・社会教育それぞれの分野の施策に関して、評価を実施しました。

(2) 今年度の点検及び評価の流れ

まず、主要事業ごとに教育委員会事務局自らがそれぞれの事業のコスト及び成果等について自己評価を行いました（教育委員会事業評価シート（計画）・（実施内容）・（評価）各欄）。その後、事務局評価の客観性を確保するため、作成した評価シート及び各課への有識者ヒアリングをもとに、有識者より様々なご意見をいただきました（教育委員会事業評価シート（有識者意見）欄）。事務局はそれらのご意見を受けて、来年度以降の事業方針を決定しました（教育委員会事業評価シート（方向性）各欄）。

最後に、これらすべてについて教育委員よりご意見をいただきました（点検及び評価のまとめ）。

(3) 点検・評価の経緯

①令和2年度 2月定例教育委員会会議（令和3年2月19日開催）

教育に関する事務の点検及び評価の公表・年度計画について協議決定するとともに、事務の点検及び評価を行う様式及び評価事業の決定を行いました。

②教育に関する事務の点検及び評価 有識者ヒアリング

（令和3年6月8日・10日開催）

事業評価について、各事務担当より意見聴取を行いました。

③令和3年7月 教育委員からの意見の聴取

教育に関する事務の点検及び事業評価についての意見を聴取しました。

④令和3年8月 教育委員の意見総括と最終決定

教育に関する事務の点検及び評価報告書を決定しました。

⑤「教育に関する事務の点検及び評価報告書」を葛城市議会議長に提出します。（令和3年9月提出予定）

(4) 各事業の方向性

令和2年度主要施策における来年度以降の方向性について、集計結果は以下のとおりです。

事業の方向性	件数
さらに重点化する	0 件
現状のまま継続する	16 件
見直しのうえ継続する	7 件
事業の縮小を検討する	0件
休止、廃止を検討する	0件
終了・完了	0件

(主要施策ごとの評価は、P15～P60 に掲載)

3. 教育委員会点検・評価に関する有識者の概要

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、葛城市教育委員会が行った事務の管理及び執行の状況についての自己点検及び評価に対する意見をいただくため、葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者を委嘱しました。

有識者は、次の方に委嘱しました。

岡野 晴充(元小学校校長、葛城市社会教育委員・公民館運営審議会委員、
歴史博物館協議会委員)

川中 教正(當麻寺奥院 副住職)

(主要施策ごとの意見は、P15～P60 に掲載)

4. 教育委員会の運営及び活動状況

(1) 教育長及び教育委員について

教育長及び教育委員は下表のとおりです。(令和3年9月1日 現在)

職 名	氏 名	備 考
教育長	椿本 剛也	
教育長職務代理者	和田 治	
委 員	高木 希容子	
委 員	高橋 真一	
委 員	山口 容視子	

(2) 教育委員会議及び審議状況について

令和2年度は合計で20回の委員会を開催し、審議事項30件、協議報告事項49件について審議・協議を行いました。内容は、下表のとおりです。

開催日	審議事項	協議報告事項
4月13日	・葛城市立小中学校グループワーキングに関する要綱の一部を改正する要綱	・教育委員会人事異動について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・令和2年度学校教育課程について
4月27日	・葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について	・学校休業の今後について ・葛城市歴史博物館協議会委員の委嘱について
5月12日	なし	・社会福祉法人葛城市社会福祉協議会評議員並びに社会福祉法人奈良県共同募金会葛城市支会評議員の選出について ・学校運営協議会設置校の指定および委員の委嘱について

開催日	審議事項	協議報告事項
5月20日	なし	・学校再開について ・令和2年度学校運営協議会委員の委嘱について
5月27日	・葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について ・葛城市学校給食特別会計補正予算に対する意見聴取について	・社会教育施設の再開について
6月4日	なし	・学校運営協議会委員の委嘱について ・学校給食運営委員（PTA 代表）の委嘱について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について
6月15日	・教育に関する事務に係る議案の意見聴取について	
6月29日	なし	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・小中学校、幼稚園の行事について ・令和2年度葛城市初任者研修会の開催について
7月10日	なし	・令和2年度 教育に関する事務の点検及び評価について ・修学旅行等行事について

開催日	審議事項	協議報告事項
7月30日	・葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について ・葛城市学校給食特別会計補正予算に対する意見聴取について ・社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について	・文化会館協議会委員の委嘱について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・奈良県市町村教育委員会研修大会について ・通級指導教室について ・修学旅行アンケートについて
8月6日	なし	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・修学旅行アンケートについて
8月18日	・葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について ・葛城市学校給食特別会計補正予算に対する意見聴取について ・財産の取得について ・職員の処分に関する諮問について	・令和2年度 教育に関する事務の点検及び評価報告書について（最終確認依頼）
9月15日	・葛城市歴史博物館条例施行規則の一部を改正する規則について ・葛城市教育委員会事務局決裁規程の一部を改正する規程について	・葛城市体力づくりセンター運営協議会委員の委嘱について ・学校訪問の日程調整について ・葛城市教育大綱について
10月6日	なし	・葛城市教育委員会後援名義の使用について

開催日	審議事項	協議報告事項
10 月 15 日	なし	・給食米飯用米及び学校給食用牛乳供給事業の紙パック化について ・令和3年「成人式」について
11 月 25 日	・葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について ・葛城市学校給食特別会計補正予算に対する意見聴取について	・幼稚園訪問について
12 月 16 日	・葛城市文化財保護審議会委員の委嘱について	・葛城市歴史博物館協議会委員の委嘱について ・葛城市学校給食運営委員会委員の推薦について ・葛城市教育大綱アクションプラン案について ・教育委員報酬の支払い方法について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・幼稚園訪問の日程について ・葛城市教育委員会作文の選出について
1 月 19 日	・葛城市社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について	・葛城市文化会館協議会委員の委嘱について ・葛城市学校給食運営委員の委嘱について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について

開催日	審議事項	協議報告事項
2月19日	・令和2年度葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について ・令和2年度葛城市学校給食特別会計補正予算に対する意見聴取について ・令和3年度葛城市一般会計予算に対する意見聴取について ・令和3年度葛城市学校給食特別会計予算に対する意見聴取について ・葛城市体力づくりセンター条例の一部を改正することについて ・工事請負契約の変更契約の締結について(葛城市立磐城小学校附属幼稚園改築工事) ・工事請負契約の変更契約の締結について(中央公民館及び市民体育館耐震他改修工事) ・和解することについて	・葛城市教育長の任命について ・葛城市教育委員会委員の任命について ・葛城市表彰審査委員会委員の委嘱について ・葛城市遊技場建築審査会委員の選出について ・処分について
3月15日	・葛城市教育委員会臨時講師取扱基準を廃止する基準について ・葛城市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について ・葛城市教育委員会事務局決裁規程の一部を改正する規程について ・葛城市学校歯科医の委嘱について	・葛城市教育委員会後援名義の使用について

(3) 教育委員会議以外の活動について

市内外の各種行事や研修等に参加しました。主な内容は、以下のとおりです。

- ・各幼稚園、小・中学校入学式(4月7日～9日)
- ・葛城市立学校初任者研修会(8月12日)
- ・各幼稚園、小・中学校運動会(9月26日～10月10日)
- ・総合教育会議(10月6日)
- ・各小・中学校訪問(10月23日～11月25日)
- ・各幼稚園訪問(1月28日、2月3日)
- ・成人式(1月11日)
- ・教育委員会人事具申ヒアリング(1月14日～15日)
- ・総合教育会議(3月15日)
- ・各幼稚園、小・中学校卒業式(3月16日～19日)

5. 葛城市総合計画に基づく政策体系について
葛城市総合計画については以下のとおりです。

都市像	政策の柱
歴史を重ね、未来を育む 時代を超えて 愛される住みよい共存の都市 葛城	調和・共助 ～多種多様な価値観が共存するまち～
	壮健・学習 ～心と身体が健やかに育まれるまち～
	活力・安全 ～にぎわいあふれる安心なまち～

政策目標	施策目標
市民みんなが活躍できる社会の構築	高齢者や障がい者が生きがいをもって暮らせるようにする 女性が積極的に社会進出できる社会を形成する
豊かな自然の保全・継承	循環型社会を形成し、ごみの減量化を進める 森林や河川等の自然環境の維持・景観形成に努める
歴史・文化と調和的な地域づくり	歴史や文化の保護・活用を図る 時代の変化を踏まえた地域づくりを進める
誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり	未病・予防と重症化防止の取組を通じた健康寿命の延伸 安心して医療・介護サービスが受けられる体制づくり 運動の場の形成を通じた市民の健康の増進
教育・学習による未来の市民づくり	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う 基礎学力の向上や社会を生き抜く力の養成を進める
生涯学習による豊かな心の涵養	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する 人権教育により差別のない社会を形成する
住みよいまちを支える社会基盤の実現	基幹道路や駅前道路、地域交通ネットワークの整備を進める 管路の整備・補修を進めて安定的な上下水道の利用を確保する
産業振興による地域の稼ぐ力の向上	農商工業の地場産業を育成し、活性化させる 観光業の振興によるまちの賑わい創出
安心・安全な生活環境の整備	自然災害や火災等に対する備えを十分なものにする 地域の防災体制を強化し、犯罪の発生を抑止する

6. 教育委員会事業評価シート

【令和2年度主要事業に対する教育委員会評価シート】

- 事業 No. 1 学校施設トイレ改修工事
- 事業 No. 2 学校施設各所改修工事
- 事業 No. 3 小学生スポーツ教室委託事業
- 事業 No. 4 学校給食事業
- 事業 No. 5 葛城歌壇短歌大会
- 事業 No. 6 読書活動支援・講座
- 事業 No. 7 ブックスタート事業
- 事業 No. 8 電子図書館事業
- 事業 No. 9 成人式式典事業
- 事業 No. 10 青少年健全育成事業
- 事業 No. 11 学校・地域パートナーシップ事業
- 事業 No. 12 生涯学習まちづくり推進大会
- 事業 No. 13 葛城アートフェア事業
- 事業 No. 14 公園まつり実行委員会業務
- 事業 No. 15 中央公民館 當麻文化会館 教室・講座事業
- 事業 No. 16 地区館教室・講座事業
- 事業 No. 17 文化振興事業
- 事業 No. 18 展示（常設展・特別展等）事業
- 事業 No. 19 歴史講座開催事業
- 事業 No. 20 埋蔵文化財等調査事業
- 事業 No. 21 各種教室開催事業
- 事業 No. 22 各種スポーツ大会等開催事業
- 事業 No. 23 体育施設の管理運営事業

教育委員会事業評価シート

		事業No.	I
事務事業名	学校施設トイレ改修工事	担当課名	教育総務課
係 名	施設係	施 設 名	市内各学校施設

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	明るく清潔で快適なトイレ空間の構築				
事業の内容	老朽化し洋式化率の低いトイレを、明るく清潔で快適な空間にするため、新庄中学校北棟のトイレの全面改修工事を実施した。 和式便器の洋式化、湿式床から乾式床、その他内装、設備器具の更新を行った。				
事業対象	各学校施設				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)				区 分	令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
				事業費 ①	81,906	55,132	50,633
				内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	65,744	39,684	33,846
					16,162	15,448	16,787
					0	0	0
				人件費 ②	1,800	2,820	2,820
				総コスト①+②		83,706	57,952
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)	
	事業 実績	施工	千円	80,850	54,230	49,863	
		設計	千円	-	-	-	
		監理	千円	1,056	902	770	
	事業 成果			磐城小学校新館1階2 階男女トイレ全面改 修 洋式化、乾式床化 新庄北小学校 南棟1 階 2階3階男女全面 改修 洋式化、乾式床化	新庄中学校北棟1階2 階3階男女トイレ全面 改修 洋式化、乾式床化	當麻小学校北棟1階2 階3階男女トイレ全面 改修 洋式化、乾式床化	

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	生活文化の変化に伴い、トイレの洋式化を促進し、実生活に則した環境づくりを実施した。やや暗いイメージのある湿式床から、明るく清潔感あふれる乾式床にし、快適な空間を提供できた。臭いの元を断つために、全排水管及び、床・壁・天井・ブースの全撤去、新設をおこなった。			
事業の課題・問題点	工事時期により、授業実施中に音出し工事をするこで、授業への悪影響が懸念される。できるだけ休日作業を実施するが、工期内竣工の工程により、調整の困難度が高い。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	引き続きトイレの洋式化、乾式床化を行っている。 長期的な維持については、丁寧な使用と清掃を呼び掛けるとともに、不具合がある場合には早期に連絡いただき対応するようにしている。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	生活環境の変化に伴い、トイレを洋式トイレにし清潔感のある乾式床にすることによって快適な空間を提供できたのは評価できる。今後、児童・生徒がより良いトイレを使用できるように、保護者及び児童生徒の意見を聴きより良いトイレの改修に取り組んでもらいたい。 一般家庭や商業施設では、洋式トイレが一般化しており、和式トイレを見かけることが少なくなっています。子どもたちにとって、今の学校生活は未来の社会生活への準備という側面もあると考えられるので、洋式化は時代の流れと言えます。今後は洋式トイレ特有の衛生面対策も必要になると考えられます。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	前例に固執することなく、これまでの使用実績の意見を踏まえながら、清潔感のある快適な空間を提供できるようトイレの改修を進めてまいります。また、合わせて、改修後のトイレの衛生管理についても快適な環境が保てるよう学校と連携して取り組んでまいります。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	2
事務事業名	学校施設各所改修工事	担当課名	教育総務課
係 名	施設係	施 設 名	市内各学校施設

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～				
	政策目標		教育・学習による未来の市民づくり				
	施策目標		子どもの健全な育成に対する各種支援を行う				
事業の目的		教育施設の危険箇所・老朽箇所を改修し、児童・生徒の安全を確保するとともに、快適な教育環境の提供を行う。					
事業の内容		より良い教育環境を築くため、市内学校施設の建物・設備の中規模程度の改修工事を実施した。 新庄小学校では多目的室2の雨漏り対策・床の補修工事及び職員室等網戸の設置工事、新庄北小学校では遊具塗装工事、磐城小学校では本館及び南館階段の手すり増設工事、職員室の床補修工事及び、校務員室とトイレ間の換気扇改修工事を行った。					
事業対象		各学校施設					
事業年度		■	区分指定無		□	年度 ～ 年度 間	

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
		事業費 ①	2,484	2,612	8,489
		内一般財源	2,484	2,612	8,489
		内国・県補助金	0	0	0
		内受益者負担	0	0	0
		人件費 ②	300	2,820	2,820
		総コスト①+②	2,784	5,432	11,309
実績と 成 果	区 分	単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業実績	千円	2,484	2,612	8,489
	事業成果	工事箇所	主な内容 【新庄北小】体育館蝙蝠対策、教室LED交換 【磐城小】教室床補修、職員室扉交換 【忍海幼】遊具塗装補強 【當麻幼】手洗い場塗装	主な内容 【新庄小】多目的室雨漏り・床補修、職員室網戸設置 【新庄北小】遊具塗装 【磐城小】手摺設置、職員室床補修	主な内容 【新庄北】プールフェンスの改修 【忍海小、磐城小】渡り廊下滑り止め施工 【新庄中】側溝改修 【當麻幼】職員・来客用トイレの洋式化

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☒	増加	☐	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☒	十分貢献している	☐	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
	☒	十分できている	☐	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	A		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	各学校園からの要望について、児童・生徒・園児の衛生面、安全面、利便性の向上等を検討し、緊急性の高いものを本事業で施工することにより、施設全体の長寿命化にもつなげることができた。							
事業の課題・問題点	各学校園とも、建築より相当年数が経過しており、学校園側が要望する修繕箇所も年々増加しているが、予算に伴い全てに対応することは困難である。子どもの命を第一に考え、緊急を要する箇所から着手することとし、安全で安心できる教育施設の環境づくりを進める必要がある。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	各学校園との連携を密にし、不具合箇所があれば都度現地確認のうえ、特に安全性に関わる部分や学校生活に影響がある部分については早期に対応を行うなど、安心安全の確保に努めている。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	本年度も、安全な教育環境を提供するために、施設点検を定期的実施され危険箇所の早期発見・修繕・改修し、教育施設の環境整備に取り組んでおり、評価できる。 葛城市内の学校施設は昭和の建築物が多く、各所で老朽化が進んでいます。施設の長寿命化の為に定期的な改修は不可欠です。学校施設からの要望としっかりと精査し、必要な箇所に的確な処置を行っていただきたいです。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☒	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☐	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	市内の学校施設は建築年も古い建物が多く、改修を必要とする範囲は、建物本体、電気設備や機械設備において多岐に渡って存在します。予算措置等もあり全ての解消は出来ませんが、学校からの意見・要望を精査し、現状を把握したうえで、安全で安心な学校生活が過ごせるよう必要な処置を講じてまいります。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	3
事務事業名	小学生スポーツ教室委託事業	担当課名	学校教育課
係 名	学習指導係	施設名	小学校

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	市内全小学校の5年生を対象に、日本サッカー協会よりアスリート等の派遣を仰ぎ「夢をもつこと」「協力すること」の大切さをゲーム及び講話を通じて指導いただく。				
事業の内容	「小学生スポーツ教室委託事業」とは、日本サッカー協会が実施しているもので、サッカー界だけでなく他のスポーツのトップアスリート等の交流を通して、子ども達の心身の健全な発達に貢献していくプロジェクトであり、「DREAM 夢があるから強くなる」をスローガンに掲げ、「夢の教室」をテーマにしている取組である。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症を考慮し未実施であります。				
事業対象	市内の小学5年生				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
		事業費 ①		1,700	0	1,965
		内一般財源		1,700	0	1,965
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②				
		総コスト①+②		1,700	0	1,965
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	対象人数	人	400	0	400
	事業 成果	授業を受けて よかった	%	93.80	0.00	100.00
		授業を理解で きた	%	90.80	0.00	100.00
		自分の夢を考え	%	100.00	0.00	100.00
						.

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	☒ A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている ☐ B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている ☐ C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い ☐ D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	未実施のため、評価できず			
事業の課題・問題点	令和2年度は未実施です。前年同様、費用(旅費)を縮小するための日程調整が課題です。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	特別授業講師「夢先生」等スタッフの往復交通費(旅費)節減のため、5校でできるだけ連続した日程調整が必要である。
-------------------	---

有識者意見	本年度は新型コロナウイルスで未実施であるが、このような状況下でも実施できるよう検討する必要がある。今後とも、児童のニーズを的確に把握し、児童にとって有意義な時間になるよう企画・運営をお願いしたい。 令和2年度はコロナにより開催する事ができなかったが、葛城市学校教育の魅力の一つとなっている事業です。近年はスポーツ以外の講師選定もできるようになったので、事業名称の検討も必要だと考えます。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	コロナウイルス感染拡大の状況下においては、先生の派遣が困難な状況であるなど、費用面、授業の実施方法などについて、課題が多くあるが、事業者との交渉を行いながら、毎年継続して、体験の場を提供できるよう検討する。 スポーツに限定しない「夢の教室」として実施していることから、事業名についても検討し、夢先生の授業を有意義なものとする。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	4
事務事業名	学校給食事業	担当課名	学校給食センター
係 名	学校給食センター	施設名	学校給食センター

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	園児・児童・生徒の心身の健全な発達のため、安全で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食に関する正しい理解と判断力を養い学校での食育に資することを目的とする。				
事業の内容	葛城市の給食事業は、給食センターから幼稚園5園・小学校5校・中学校2校と適応指導教室に、給食数1日約4, 200食を調理・配送・回収・洗浄する学校給食事業を実施している。 安全・安心で栄養バランスのとれた給食を提供するために、献立の作成や食材の選定を行い、学校給食衛生管理基準に基づき、全ての学校給食関係者の衛生管理の意識の徹底を図っている。また、設備機器等の保守点検業務も統一して行っている。 食育の取り組みでは、地産地消を推進して地元産の米や野菜への理解を深め、毎月の「給食だより」に旬の野菜等の説明を入れて食への関心を高める。また、食物アレルギーにも対応した給食を提供している。				
事業対象	幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒				
事業年度	■	区分指定無		□	年度 ～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
		事業費 ①		326,339	336,188	365,547
		内一般財源		161,413	162,736	180,279
		内国・県補助金			100,603	62,800
		内受益者負担		164,926	72,849	122,468
		人件費 ②		20,237	26,408	27,853
		総コスト①+②		346,576	362,596	393,400
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	給食材料費	千円	185,561	180,207	210,233
		内市費	千円	20,635	19,326	27,457
		内保護者負担金	千円	164,926	72,849	122,468
					88,032	60,308
	事業 成果	給食人数	人	4,263	4,228	4,308
		給食数	食	680,019	661,143	805,596

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない	
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	地場産物として、米は100%葛城市産のヒノヒカリを使用し、はねぎや季節野菜を市内産で賄っている。また、季節の食材として柿なども使用している。今後も食育の一環として地場産物や季節食材への理解を深め、積極的に取り入れ、食への関心を深めていきたい。			
事業の課題・問題点	・異物混入対策 ・アレルギー対策 ・地産地消に関する取り組み（安定した質・量の確保等） ・給食原材料費の価格上昇 等			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	奈良県産の「ヒノヒカリ」を使用しているが、平成31年1月からは、奈良県産を葛城市産100%に変え、より身近な食材を使用している。野菜についても市内生産者の協力があり、市内産率は令和元年度の20%から、49.6%に増加している。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	安全で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、地産地消についても関係機関と連携して安定した供給に取り組んでおり評価できる。これからも、安全・安心で栄養バランスのとれた給食を提供するためにも、学校給食関係者の衛生管理意識の向上及び施設の保守点検業務に徹底に力を注いでいただきたい。 子どもの健全な成長に食を欠かすことはできません。家庭環境によっては食事のバランス面で給食の果たす割合が大きくなることもあります。安全安心な食事の提供を絶対条件として事業を継続していただきたいです。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標 等)	今後においても、安全で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、地産地消について関係機関と連携して、市内産率を増加出来るように取り組んでいく。 また、学校給食関係者の衛生管理意識の向上及び施設の保守・点検を実施し、衛生面に留意したい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	5
事務事業名	葛城歌壇短歌大会	担当課名	図書館
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施設名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	葛城市ゆかりの万葉歌人・柿本人麻呂と、葛城市出身で日本芸術院会員・前川佐美雄の二人の偉大な歌人を顕彰し、短歌のふるさと“葛城”を目指すとともに、日本文化の継承と言語文化の創造を通して、生涯学習の拠点づくりに資する。				
事業の内容	平成9年から始まった事業で、葛城市ゆかりの柿本人麻呂、前川佐美雄の2人の歌人を顕彰し、短歌の故郷「葛城」を目指して短歌を募集している。 令和2年度の出詠者数は1,356名、応募作品数は1,585首であった。11月23日(月・祝)に葛城市歴史博物館あかねホールにおいて予定していた「第24回葛城歌壇短歌大会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために中止した。しかし作品の選考会は実施し、受賞者へ表彰楯・作品集・賞状を郵送にて贈呈し、またその他の出詠者全員に作品集を送付した。				
事業対象	小学生から大人までの市民をはじめ、すべての人々。				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
			事業費 ①	1,310	1,246	1,389
			内一般財源	1,157	1,086	1,229
			内国・県補助金			
			内受益者負担	153	160	160
			人件費 ②	3,339	2,640	3,485
			総コスト①+②	4,649	3,886	4,874
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	選者講師謝金	千円	280	260	280
		印刷製本・送料	千円	934	907	995
		短歌講座講師	千円	20	20	20
		各種奨励費	千円	76	79	94
	事業 成果	応募者数	人	1,933	1,356	2,000
		応募作品数	首	2,161	1,585	2,300
		大会参加者数	人	71	0	85
		短歌講座参加者	人	21	15	20

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☐	増加	☐	横ばい	☒	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☐	十分貢献している	☒	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)							
	☐	十分できている	☐	できている	☒	あまりできていない	☐	できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
☐	十分できている	☐	できている	☒	あまりできていない	☐	できていない	
総合評価	C		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	令和2年度の出詠者数は、一般の部は前年とほぼ同じだったのに対し学生の部は前年に比べ3割の減少となった。 また新型コロナウイルスの感染防止のため短歌大会を中止し、表彰式を行わなかったため、賞状や副賞(楯)を全て郵送することになり、送料が嵩んだ。 短歌大会は中止したが、例年通り出詠された作品をまとめ作品集を作成し、広く一般に見てもらえるように出詠者全員と奈良県内の公共図書館に配付した。							
事業の課題・問題点	葛城歌壇創設以来初めて短歌大会を中止した。感染防止のためやむなく中止したが、入賞者にとっては残念な結果になった。今年の大会は様々な方法を検討し、できる限り開催するよう努めたい。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、応募数が減少し、短歌大会も中止となった。令和3年度は、コロナ禍であっても応募数が増えるよう、広く「葛城歌壇」の周知に努めるとともに、短歌講座の実施や短歌関連の図書の充実等、気軽に短歌に親しめる環境作りに努めたい。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	この事業も年々参加者が減少傾向にあり、25回をもって終了となり、令和4年より対象範囲を市民のみとして新しい「葛城歌壇」が立ち上がるという。今後、今まで以上に市民のみなさまに関心を持ってもらえるよう企画・運営及び啓発活動に取り組んでいく必要がある。 令和2年度はコロナの影響により海外からの応募が減少し、さらに短い夏休みの影響で市内生徒児童からの応募も減少しています。全国海外から広く作品を応募し「短歌のふるさと葛城」を宣揚してきた事業ですが、全国には類似する事業もあり、事業開始から四半世紀を間もなく迎える今、今後の事業の在り方を一度検討する機会が必要だと思われます。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☐	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☒	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	25年間続けてきた葛城歌壇の経験とスキルを活かし、規模は小さいながらも「(仮称)葛城市民歌壇」として再出発することを目指すとともに、図書館はこれからも市民の生涯学習の支援と「短歌のふるさと葛城」の継承に努めていく。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	6
事務事業名	読書活動支援・講座	担当課名	図書館
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施設名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～						
	政策目標		生涯学習による豊かな心の涵養						
	施策目標		芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する						
事業の目的		市民に図書館を身近に感じていただき、図書館利用を促進する。 また、読書活動の推進や知識を身につけるため、おはなし会などボランティア団体に対しての支援を行う。							
事業の内容		例年、市民の読書活動支援のため、各種講座の開催、図書館職員による絵本の読み聞かせ「もぐちゃんと絵本」、小学生対象の「一日図書館員」を行っているが、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、中止した。							
事業対象		市民（大人・子ども）、おはなしボランティア、学校・幼稚園・保育所の先生等							
事業年度		■	区分指定無		□	年度	～	年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
			事業費 ①	20	0	20
			内一般財源	20	0	20
			内国・県補助金			
			内受益者負担			
			人件費 ②	3,575	1,558	1,910
			総コスト①+②	3,595	1,558	1,930
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	子ども向け講座	千円		0	20
		文学講座	千円	20	0	0
	事業 成果	子ども向け講座	人	754	660	1,130
		文学講座	人	50	0	50

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	図書館の行事である市民を対象にした講座やイベントは、新型コロナウイルス感染予防のためほとんどを中止する中で、「おはなし会」は7月から、「英語の絵本の読み聞かせ」は9月から再開した。 再開に際しては、広い会場を使用し、手指消毒、換気、ソーシャルディスタンスの確保など感染予防を施し、参加者に安心して来館してもらえるように努めた。 再開当初は、前年度より参加者が少ない状況であったが、広報誌や市内放送を入れるなど周知したところ、月を追うごとに参加が増え、例年と変わらない参加者数となった。			
事業の課題・問題点	「おはなし会」と「英語の絵本の読み聞かせ」は、ボランティアの意向により自由参加としているが、今後、市内の新型コロナウイルス感染者が増加傾向になるようなら、人数制限を設け、事前予約制にすることも検討しなければならない。 また、昨年度実施できなかった事業については、令和3年度は出来る限り中止にせず、感染防止対策を図りながら実施できるよう取り組みたい。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	今までは文学に関わる内容を重視し講座を開催していたが、多様な市民の学びの機会となる講座を実施するため、現在の社会問題などにも視野を広げ、市民の暮らしに役立つ学びの場の提供に努めたい。 また、子ども達がおはなし会や絵本の読み聞かせを通じて心に残る本に出会えるよう、ボランティアと共に子ども達の読書活動の支援に取り組む。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	新型コロナウイルス感染予防のため、中止になった講座やイベントがあり、十分な成果が見られなかった。来年度環境づくりに留意し、いろんな方法を検討し実施できるよう取り組み、気軽に利用できる図書館を目指してください。 令和2年度はコロナの影響で大幅に事業を縮小しておりますが、例年少ない予算で積極的に活動を行っております。改善点にあるように英語や文学以外の講座にも視野を広げることにより意欲的で、生涯学習の機会をより多くの人に提供していただけると期待しています。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のため、ほとんどの事業を中止することになった。 令和3年度は感染対策を徹底し、市民の娯楽や知識の習得に役立つ講座の実施に努める。 また、様々な事業を通して図書館が市民の交流の場となるよう取り組む。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	7
事務事業名	ブックスタート事業	担当課名	図書館
係 名	新庄図書館・当麻図書館	施設名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～				
	政策目標		生涯学習による豊かな心の涵養				
	施策目標		芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する				
事業の目的		赤ちゃんとも保護者が触れ合う機会をつくれるよう絵本を介して、行政と地域が連携して子育てを支援する。					
事業の内容		ブックスタート事業は、健康増進課の4ヶ月児健診時におはなしボランティアの協力を得ながら実施している事業で、赤ちゃんとも保護者が絵本を介してゆっくりと心ふれあうひとときを過ごす、そのきっかけ作りを支援する活動である。 普段であれば、図書館職員が保護者に対し、ブックスタートの趣旨説明を行い、赤ちゃん絵本を1冊プレゼントしている。その後、おはなしボランティアが赤ちゃん一人ひとりに絵本の読み聞かせを行っている。 しかし、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、職員が4ヶ月健診に出向くことなく、健康増進課を通して絵本をプレゼントすることとした。					
事業対象		4ヶ月児健診対象の赤ちゃんともその保護者					
事業年度		☒	区分指定無		☐	年度 ～ 年度 間	

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和元年度決算	令和２年度決算見込み	令和３年度予算
			事業費 ①	154	118	136
			内一般財源	154	118	136
			内国・県補助金			
			内受益者負担			
			人件費 ②	526	178	178
			総コスト①+②	680	296	314
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和２年度実績	令和３年度(目標)
	事業 実績	ブックスタート	千円	154	118	136
	事業 成果	ブックスタート	組	277	277	※300

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、ブックスタートパックや赤ちゃん絵本を健康増進課から手渡してもらい、図書館職員は会場に出向くことがなかった。 通常ならブックスタートに参加した親子がブックスタートの後、図書館へ来館し、絵本を借りたり、館内で絵本を読んだりする様子が見られ、ブックスタートの効果を感じることが出来たが、令和2年度は、来館者数も貸出冊数も減少した。			
事業の課題・問題点	生後4ヶ月の赤ちゃんを対象にブックスタートを実施するため、新型コロナウイルスの感染対策が難しく、現在実施している方法が一番安全であるが、ブックスタートパックを配付するだけでは、図書館としての役割が果たせていない。今後、同様の状況が起きることも想定し、ブックスタートの実施方法を状況に応じて対応できるよう、検討が必要である。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	現在、2つのおはなしボランティアから協力を得ているが、今後継続してブックスタートを実施するためには、さらにメンバーを増やす必要がある。令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、ボランティアに協力を要請することはなかったが、ブックスタートの再開に備え、ボランティアの確保に努めるとともに、読み聞かせの知識や技術習得のための研修実施にも取り組む。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	地域と行政が連携して子育ての支援に十分貢献している。今後も継続して実施してほしい。そのためにも、ボランティアの確保及び育成に取り組む必要がある。 子育ては「親育」といわれるように、親を育てる機会でもあります。本事業は本を通じて親と子をつなぎ、複数の世代に学びの場を提供している事業と言えます。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	ブックスタートを通して親子のコミュニケーションを豊にするとともに、絵本の読み聞かせをきっかけに本を読む楽しさを親子で共感し、将来にわたって家庭で「読み聞かせ」が継続されるように、図書館として支援に努める。 また、ブックスタートを実施するためにはボランティアの協力が必須なため、引き続きボランティアの確保に努めていく。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	8
事務事業名	電子図書館事業	担当課名	図書館
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施設名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	全ての葛城市民に読書の機会を提供する				
事業の内容	令和2年12月25日（金）から電子図書の貸出サービスを開始した。 新型コロナウイルスの感染拡大防止により、令和2年4月から5月までの2か月間、休館をすることとなったが、緊急事態宣言での外出自粛の要請により、自宅で過ごす時間が増えた市民に読書環境を提供することができなかった。また、図書館に来館したくてもできない利用者が手軽に図書を借りられるサービスがこれまでは無かった。この状況を憂慮したため、自宅にしながら図書館の本を読むことができる電子図書館を導入した。これにより、パソコン・スマートフォン・タブレットを用いて場所・時間を選ばずに市民が読書を楽しめる環境が整備できた。				
事業対象	市民（子どもから大人）				
事業年度	■	区分指定無	□	年度 ～ 年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
			事業費 ①		3,661	1,188
			内一般財源			1,188
			内国・県補助金		3,661	
			内受益者負担			
			人件費 ②		1,219	514
			総コスト①+②		4,880	1,702
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	コンテンツ購入	千円		2,726	528
	事業 成果	貸出冊数	冊		520	6,000

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない	
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和2年12月25日から始まった「かつらぎし電子図書館」は、図書館に来館しなくても図書館の本を借りることができるため、利用者の利便性を高められることに加え、電子書籍は文字の拡大機能や音声読み上げ機能等があり、文字を読むことが困難な方でも読書を楽しむことができる。 しかし、電子図書館の存在が市民の間に浸透していないため、現在のところ利用者数は少ない。広く市民に電子図書館の周知を行い、利用者の増加を図りたい。			
事業の課題・問題点	広報やポスターで電子図書館の利用を案内し利用の促進に努めているが、利用が伸びない。 令和3年3月末時点で781冊のコンテンツを所蔵しているが、電子図書館のHPでは全部のコンテンツを閲覧しづらいのも原因と思われる。 今後も電子図書館の周知に努めるとともに、現在所蔵しているコンテンツを一覧することができるリストを配布するなど、電子図書館に関心を寄せてもらえる取り組みを考えたい。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	令和2年度からの実施事業のため、改善点は該当無し。
-----------------------	---------------------------

(有識者意見)

有識者意見	近年生活文化の変化により、電子機器の普及が浸透してきている。その中で、この事業は十分評価できる。今後、この「かつらぎし電子図書館」を市民に広く啓発していくことが重要であり、現在保有しているコンテンツの蔵書も欠かせない。目標達成に向けて、取り組んでください。 これからの時代に応じた新しい事業です。図書館の開館時間は限られていて、全ての人に利用しやすい環境が整えられているとは言いきれませんでした。電子化により時間と場所を問わず書籍の貸し出しを行え、期限過ぎれば督促なく自動的に返却され、書籍が傷む心配もありません。いずれは電子と紙との比率が拮抗する時代が来るかもしれません。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	図書館に行きたくても様々な理由で来館が困難な方の読書活動を支援する。 また、生活スタイルに合わせて電子書籍と紙の本の使い分けができるよう、コンテンツの充実にも努めるとともに、不測の事態が起っても市民が読書に親しめる環境を整備していく。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	9
事務事業名	成人式式典事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施設名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	新成人が大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますため、国民の祝日に関する法律に基づく成人の日に合わせて本事業を行う。大人としての責任を感じ、義務を果たすことの必要性を実感するための機会としたい。				
事業の内容	新成人による新成人のための成人式にするために、新成人からスタッフを募集し、新型コロナウイルス感染症の影響下であっても、いかに感染リスクを低減させて成人式を挙行するか協議を重ね、本事業を実施する。				
事業対象	新成人及び新成人関係者				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
		事業費 ①		860	973	1,000
		内一般財源		860	973	1,000
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		3,686	6,043	2,517
		総コスト①+②		4,546	7,016	3,517
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	860	973	1,000
		スタッフ会議	回	9	8	8
	事業 成果	参加者数	人	333	284	300
		対象者人数	人	434	398	380

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	新型コロナウイルス感染症の影響により、従来の方式・手法をとることが出来ない状況において、新成人で構成される実行委員会のメンバーにより、感染リスクをいかに減少させて成人式を開催するかについて、様々なアイデアを検討した。 『密』をできる限り作らない為に、当麻地区・新庄地区に分けての2部開催とし、座席の間隔を確保する、入退口を2つ設ける、入退路を限定する、式典の内容を簡略化するなどの対策を実施。 対策が功を奏し、成人式において感染者を発生させることなく終えることが出来た。			
事業の課題・問題点	新型コロナウイルス感染症対策により、マルベリーホールからの退去は想定以上に速やかに行うことが出来た。しかし、屋外（ロータリー等）で密を生じることとなった。 令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響が残ると想定される状況下で、屋外の密状態の改善が大きな課題となる。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	過去の手法をそのまま活用することが困難な状況下において、実行委員会のメンバーは事務局が持つ過去の経験やデータを生かしながらも、柔軟な発想をもって課題に対する解決策を出すことが出来た。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	新型コロナウイルスの影響により、当麻地区・新庄地区に分けて2部制及び式典のみの開催になったことは残念であるが、無事実施することができ評価できる。今後、この開催の不備であった点を踏まえ企画・運営に生かしていただください。 人生で一度しかない成人式。タイミングもありますが、コロナ禍でも万全の対策を施し開催を試みたことが評価できます。以後数年はコロナの影響が考えられます。コロナ禍でも開催できる方法の模索と、どうしても中止せざるを得ない時に別対応がとれるよう準備が必要かと思います。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	令和3年度も、当麻地区・新庄地区に分けて2部制での実施が決定している。状況が許す限り、成人式を執り行うが、万が一中止せざるを得ない状況となった場合の対応策も検討していく。 2部に分けての実施が続くと予想される中で、令和2年度の経験と反省を生かし、より良い式典、運営を目指す。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	10
事務事業名	青少年健全育成事業	担当課名	生涯学習課
係 名	青少年健全育成事業	施設名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	次代を担う青少年の健全な育成を地域ぐるみで図る。				
事業の内容	市青少年健全育成協議会を組織し、所属団体の校長会・生徒指導主任者会・PTA協議会・県青少年指導員・高田警察署少年補導員の5団体間の連絡調整を行い、下記の活動を推進する。 ①広報・啓発活動の推進(市広報誌への掲載、駅・学校等での横断幕、のぼり旗設置) ※駅前での啓発活動(啓発物品の配付)は、実施せず。 ②非行防止と環境浄化運動の推進(遊戯施設の巡視活動) ※各種イベントでの巡視活動は、イベントの中止に伴い、実施せず。				
事業対象	市内青少年				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
		事業費 ①		400	400	400
		内一般財源		400	400	400
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		1,780	1,776	1,776
		総コスト①+②		2,180	2,176	2,176
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	会議	回	6	3	3
		研修会	回	9	1	9
		巡視活動	回	1	1	1
		街頭啓発	回	4	0	2
	事業 成果	会議	人	70	21	21
		研修会	人	9	1	9
		巡視活動	人	0	0	0
		街頭啓発	人	141	0	100

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	新型コロナウイルス感染症の影響により、街頭啓発が全く行えなかった。『啓発物品を手渡し』という方式である以上、致し方ないことであった。啓発活動の場となっていた各種イベントが中止となったことも、活動が行えなかった原因の一つである。 しかし、従来「のぼり旗」にて啓発を行っていた街頭掲示については、横断幕へと変更し、よりメッセージを明確に示すことが出来る形態へと変更した（一部、のぼり旗の掲示も存続）。			
事業の課題・問題点	新型コロナウイルス感染症の影響下での活動方法を考えていく必要がある。 また、コロナ禍により子どもの成長に重要な『多様な人と交わる機会』が著しく制限された状況下において、青少年健全育成事業はどのような役割を担うべきか、改めて事業の在り方を考える。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	葛城市子ども・若者地域支援協議会、生活安全推進協議会等、関係諸機関との連携を図りながら、SNSネイティブ世代に対して、時代に即した、また、コロナ禍に即した支援に努め、地域の方々を巻き込みながら、地域全体の教育力向上の一翼を担いたい。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	去年度からの課題や問題点を受けて、本年度は、5団体だけでなく地域のいろんな団体やグループとの連携を図り、地域を巻き込んだ活動になりつつあり評価できる。これからも青少年の健全育成のため、情報発信・啓発活動に取り組んでください。 青少年を取り囲む環境は年々変化しており、人と人との交流もコロナ禍の影響もあってさらなるネット化が加速しています。担当者間での情報交換の場として本事業に大きな意義を感じつつ、時代に即した対外活動が出来ているかとなると物足りなさを感じます。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見・数値目標等)	青少年を取り巻く環境は、予想をはるかに上回る速度で変化し続けており、生じる問題や課題も潜在化が進んでいる。 このような状況に対して、今までの活動内容を見直し、何をすべきか、何が行えるのかを精査し、新たな手法を考案していく必要がある。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	11
事務事業名	学校・地域パートナーシップ事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施設名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～						
	政策目標		生涯学習による豊かな心の涵養						
	施策目標		芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する						
事業の目的		学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図り、地域住民と生徒との異世代交流を通して地域の連帯感を高める。							
事業の内容		学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図るため、市内各小・中学校に学校支援地域コーディネーターを配置し、学校支援ボランティアの派遣等を行いながら環境整備支援活動等を中心に支援を行っている。							
事業対象		市民及び市内小中学校教員							
事業年度		☒	区分指定無		☐	年度	～	年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
		事業費 ①		2,575	2,946	3,000
		内一般財源		951	1,500	1,400
		内国・県補助金		1,624	1,446	1,600
		内受益者負担				
		人件費 ②		2,131	2,820	2,468
		総コスト①+②		5,217	5,766	5,468
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	運営委員会に係る経費	千円	378	369	413
		教育支援活動に係る経費	千円	2,195	2,577	2,587
	事業 成果					

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和2年度の1学期は、学校が休業となったこともあり、殆ど活動を行えなかった。学校が再開された後も、子どもとボランティアが直接触れ合う授業支援などは、ボランティア人数の制限や、手指消毒の徹底など、細心の注意を払っての実施となった。 このような状況下でも、限られた機会ではあったが、GIGAスクール構想に伴うパソコン学習への支援など、新しい取り組みを行うことができた。			
事業の課題・問題点	ボランティアの増員が課題となる。昨年度に引き続き、ボランティア募集の場となっているPTA総会や授業参観などの機会が失われているなかで、どのように人員を確保するか、学校側とも協力して進めていく。 また、一年限りのボランティアが多く、長期にわたり従事いただく方が少ない点も課題となっている。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	コーディネーター間の連携は取れており、互いの学校の情報共有や、必要に応じて助言や助力を行っている。しかし、コーディネーターの後任育成は思うように進まず、先ずは長期にわたり従事いただくボランティアの育成が急務である。ボランティアの育成の為に、地域への情報発信を行う必要がある。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	この事業の成果は、学校支援地域コーディネーターの力量が大いに関係するものであり、コーディネーターの高齢化において後任の発掘及び育成が急務であり、ここに力を注ぐ必要がある。 県内他市町村でも同様の事業が行われていますが、その中でも葛城市の本事業は高評価を得ていると伺っています。コーディネーターの人柄に大きく左右される事業だけに、人材発掘が常に求められています。本事業の恩恵について保護者に正しく伝わっているかが疑問です。活動内容をもっと紹介することで人材発掘の可能性が広がるかもしれません。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	現在、当事業の運営は大変良い状況であるが、これは優秀な人材によってもたらされており、当事業の長年の課題となっている、人材確保への打開策は未だ模索中となっている。今後も人材発掘及び育成に注力していく。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	12
事務事業名	生涯学習まちづくり推進大会	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施設名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標		生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標		芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的		主に市内の小・中学校生の日頃の思いを発表する場とモデル分館(毎年2館指定)が、1年間の生涯学習活動の成果について発表を行う場として本事業を捉えており、明るく楽しい「生涯学習まちづくり」の推進を目指している。			
事業の内容		①令和2年度モデル分館として指定を受けた八川寺前集会所及び大畑集落センターによる生涯学習活動発表 ②モデル分館指定を受けている2分館の区民による教室、講座等において作成の絵画、手芸作品、写真等の展示 ③市内小中学校児童・生徒による学校での体験学習や生活発表的な作文の朗読 ④菊花展表彰式 令和3年2月に上記の内容にて葛城市生涯学習まちづくり推進大会の開催を予定していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大会の中核を成すモデル分館の活動が殆ど行えなかったことにより活動発表が不可能となり、また、大会会場となるマルベリーホールでの三密対策も困難であることから、令和2年度の大会は開催を中止とした。			
事業対象		市民			
事業年度		■	区分指定無	□	年度～年度間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和元年度決算	令和２年度決算見込み	令和３年度予算
			事業費 ①	500	0	1,000
			内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	500	0	
			人件費 ②	2,131	1,410	2,115
総コスト①＋②			2,631	1,410	3,115	
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和２年度実績	令和３年度(目標)
	事業 実績	参加人数	人	437	0	500
	事業 成果					

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	未実施のため、評価できず			
事業の課題・問題点	令和3年度の葛城市生涯学習まちづくり推進大会では、令和2年度に実施できなかった2分館（八川寺前集会所及び大畑集落センター）を、改めてモデル分館に指定させていただき、本来令和3年度に指定される2分館（今在家分館及び平田公民館）と併せて発表していただく予定。 同時に、感染症の影響下において、安全面に配慮しながらどのように推進大会を開催するか、検討していく必要がある。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、地域の活動が少なくなった今だからこそ、地域活動の重要性をご理解いただき、感染症対策を十分に行った上で地域活動に励んでいただき、令和4年2月に開催予定の葛城市生涯学習まちづくり推進大会での発表に臨んでいただく。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	令和4年で分館の発表が終わる。事業の目的でもある「生涯学習まちづくり」の推進には、ある程度の成果が出たようである。また、地域住民の交流の場としての公民館であることは確かである。このことを踏まえ、今後この事業をどうしていくのか、今までの活動内容を再検討し方向性を見出す必要がある。 公民館活動は近年薄れていく地域コミュニティの数少ない砦といえます。発表の場があるから「集まる機会が増える」「生涯学習のやり甲斐がある」ということもあります。ただし、令和4年度で担当公民館が一巡を終える時期となります。他事業に見られるように生涯学習も多様化しています。菊だけでなく観賞用に多種の植物も個人で栽培されてもいます。事業内容の変革時期だと思われます。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	全ての地区が終了したのちに、当事業の在り方を再度検討する必要がある。 事業主体となる地域住民のニーズがどのようなものであるかを把握し、事業目的と照らし合わせながら、次の事業形態を考察する。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	13
事務事業名	葛城アートフェア事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施設名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～					
	政策目標		生涯学習による豊かな心の涵養					
	施策目標		芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する					
事業の目的		葛城市の芸術文化のより一層の振興を図るとともに、芸術文化を通じ市内外の住民の交流・地域の活性化を図り、「魅力あるまち葛城市」の発信を目的とする。						
事業の内容		全国より様々なジャンルの芸術作品を募集し、當麻寺を中心として、周辺ギャラリー、古民家、公共施設等に、作品展示を行う予定であったが、県外からの応募が多数あり、感染拡大予防の観点から、県外からの来訪が好ましくない状況であること、また、会場となる寺院、古民家等は、普段は居住スペースであり、不特定の方が出入りすることは、居住者の健康を害する危険性があるために、令和2年度においては、開催を取り止めた。						
事業対象								
事業年度	☒	区分指定無		☐	年度	～	年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
			事業費 ①	2,999	0	2,000
			内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	2,999	0	2,000
			人件費 ②	4,175	1,410	3,907
			総コスト①+②	7,174	1,410	5,907
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	2,999	0	
	事業 成果	来場者数	1日当	895	0	
		総入場者数	5日間	4,476	0	

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	☒ A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている ☐ B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている ☐ C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い ☐ D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	未実施のため、評価できず			
事業の課題・問題点	令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響が続くと見込まれる中、従来通りの手法(寺院や古民家を利用)を用いての事業実施は不可能であると考えます。 新たな手法をもっての事業実施を必要がある。しかしながら、その手法は模索中である。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	大幅な事業内容の変更が必要となる令和3年度に、情報発信の在り方を含めて事業実施方法の抜本的な改善を行う必要がある。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	本年度は、新型コロナウイルスのため中止になった。単独事業になって3年、事業の目的である、「魅力あるまち葛城市」の発信に向けて、事業の見直しが必要である。 當麻寺周辺地域は全国的に有名で、葛城市が誇る観光資源であります。文化財や古い街並みは芸術との相性が良く、単なる作品発表会ではなく、出品する価値のある場を演出することができます。WEB開催などは事業趣旨に沿わずあまり効果が期待できませんので、アフターコロナを見据えて実行委員会と共に本事業の再開方法を議論する期間と考えては如何でしょうか。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	コロナ禍での開催を目標に様々な手法を検討したが、「魅力あるまち葛城市の発信」という本事業の目的を十分に達成できる企画は未だに考案されず、大きな変革を行う必要があると考える。 また、ご指摘のとおり、目的が達成できない可能性が高いと判断した場合には、令和3年度の開催を中止することも選択肢の一つとして認識する必要があると考える。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	14
事務事業名	公園まつり実行委員会業務	担当課名	中央公民館
係 名	中央公民館係	施設名	中央公民館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～						
	政策目標		生涯学習による豊かな心の涵養						
	施策目標		芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する						
事業の目的		地域住民が集う中で、市民ひとりひとりが仲間としての絆を強め、地域文化への理解をより一層深めることで誇りをもった活力あるまちづくりへの参加を目的とする。							
事業の内容		葛城市公園まつり実行委員会を主催者として、葛城市体育協会および区長会をはじめとする約21団体の協賛により屋敷山公園一帯で野外イベント（和太鼓や踊り、ジャグリングパフォーマンスショー、演劇、フラダンス、吹奏楽等）を実施するとともに、模擬店、フリーマーケットの出店、盆栽の展示即売会、似顔絵、古本市にニュースポーツなどを同時に行う。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止。							
事業対象		市内地域対象住民							
事業年度		■	区分指定無		□	年度	～	年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	単位	令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
		事業費 ①		1,419	0	0
		内一般財源		1,419	0	0
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		2,056	0	0
		総コスト①+②		3,475	0	0
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	1,419	0	0
		企画運営委員会	回	2	1	1
		実行委員会	回	1	1	0
	事業 成果	参加人数	人	11,000	0	0
		協賛団体	団体	21	0	0

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	未実施のため、評価できず			
事業の課題・問題点	毎年、多彩な内容により多数の来場者で埋め尽くされる公園まつりは、屋外開催のため会場は例年賑やかに彩っている。しかしながら、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。密の状態が1日続く当事業は、今後、新型コロナウイルスをはじめとした病原菌によるウィルス病での感染拡大が懸念されるが、ワクチンによる予防接種において新型ウィルス病の鎮静化が、公園まつり再開のカギとなる。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	令和元年度で、公園まつり関係会議の回数を増やし、出店場所変更等の協議を行い工夫することで、来場者の流れを変えとともに、マンネリ化を改善し会場全体で楽しんでもらえるよう、また、パンフレットには救護の場所や緊急時における連絡先の記載も設けてそれぞれ改善を行った。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	新型コロナウイルスの影響で中止になった。去年度の課題・問題点において、再検討され改善できており評価できる。これからも葛城市公園まつり実行委員会が中心となって、事業の目的達成に向けて取り組んでください。 コロナ禍で中止という残念な結果となりました。この影響は数年続くことが想定され、例年通りの開催は今しばらく難しいかもしれません。しかし、住民イベントを開催することがコロナ禍からの脱出を印象づけるはずです。コロナ影響下でもできる公園まつりの在り方を模索することが再開への道となり、ひいては市民を勇気づけることになると期待します。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	当事業は新型コロナウイルス病の感染拡大防止対策により、2年連続中止となりましたが、ワクチン接種が進むにあたり、次年度では開催に向けての希望の光が見えたように思います。多彩な内容で賑わう園内は来場者が主役の事業でありますので、有識者からの意見を活かせるよう課内で検討してまいります。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	15
事務事業名	中央公民館 当麻文化会館 教室・講座事業	担当課名	中央公民館・当麻文化会館
係 名	中央公民館係	施設名	中央公民館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	市民等の教育、学術、文化及び教育向上のため、「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。				
事業の内容	『社会教育法』第20条(目的)、第22条(公民館の事業)ならびに『公民館の設置及び運営に関する基準』第3条(地域の学習拠点としての機能の発揮)に基づき、市民等の教育、学術、文化及び教養の向上のための「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。 令和2年度において、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部で開講の中止や変更を行った。 1. 中央公民館実施分 6教室 成人 4：華道、きもの着付け等、子ども2：絵画、茶道 16講座 成人13：菊づくり、ガーデニング、暮らしのマナー 等 子ども3：親子クッキング(土)、親子お菓子・パンづくり(土・日) 2. 当麻文化会館実施分 成人(3)、子ども(2)、1日講座(1)は、タブレット前期(5コース)後期(1コース)は、新型コロナウイルス感染症対策のため開講中止。また、4つの1日講座は応募者が少ないため不成立で開催できなかった。 11講座 成人(6)：絵画、男の食卓、ヨーガ前期・後期、歌謡、かな書道 1日講座(1)：プリでつくるインテリアフラワー タブレット講座(4)：後期講座 受講生の募集は、毎年3月の『広報』とともに各戸配布する『教室・講座ガイド』において、市民に周知している。タブレット後期講座は10月の『広報』で募集した。				
事業対象	市内地域対象住民				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和元年度決算	令和２年度決算見込み	令和３年度予算
			事業費 ① 内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	4,454	2,109	3,347
				4,454	2,109	3,347
			人件費 ②	8,630	7,117	7,381
総コスト①+②			13,084	9,226	10,728	

実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度決算	令和２年度実績	令和３年度予算
	事業 実績	中央公民館	謝金	3,071	1,459	2,090
		當麻文化会館	謝金	1,383	650	1,257
		合計	謝金	4,454	2,109	3,347
	事業 成果	中央公民館	受講者数	3,910	1,384	1,799
		當麻文化会館	受講者数	1,837	851	1,104
合計		受講者数	5,747	2,235	2,903	

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☐ 横ばい	☒ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☒ あまり貢献していない	☐ 貢献できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	C A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、開催時期を遅らせたり、中止をしなければならないことになった。また、開催した講座においても、常に感染の恐れを心配しながらの活動であったため、例年のように十分に取組めなかった。			
事業の課題・問題点	教室・講座実施開催にあたり、閉講または中止が散見されるようになった。その理由として、 ①講師、応募者の高齢化(健康面)および応募者数の減少。かな書道講座の講師、親子おもしろ工作の講師は高齢化による健康面から中止。また1日講座の俳画、竹細工、はじめてのバルーンアート講座、中高生着付は定員に満たないため中止。 ②受講料が無料(教材費等は受講者負担)のため安易に捉えられる向きがあり、同じ教室や講座を毎年受講される方が見受けられる。今後、同事業に興味を持ってもらえるような新たな内容も検討し応募者増に努めたい。そして講座を数年にわたり受講されている人や毎年ほぼ同じ受講者のみで運営されている講座については、既存クラブへの入部や新規クラブの設立を進めていきたい。			
評価を受けての改善点(過去3年間)	令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、5月末まで臨時休館となり事業縮小となった。また、令和元年度に閉講したパソコン講座に変わり、タブレット講座前期・後期各5講座(コース)を新設。(令和元年度は試行としてタブレット入門コースの2講座を開講したが大変好評であった。)。また、シェフから学ぶ匠のイタリアンも新設したが、冒頭の理由から中止。親子陶芸(土曜・日曜)も同様。令和3年度は、講座の目的を達成したとして歌謡講座と、講師辞退により親子おもしろ工作(平日・週末)を閉講とした。また、1日講座の俳画、竹細工、はじめてのバルーンアート講座は限定していた3年間で過ぎたので閉講とした。四季の和菓子づくり講座は、今年度3年目にあたるが、新型コロナウイルス感染症防止のため開催を見送った。			

(有識者意見)

有識者意見	新型コロナウイルスの影響により一部で開講の中止や変更があったが、感染対策をとり実施できたことは評価できる。これからも市民の学習ニーズを把握し、人気のある講座は期限が過ぎても再度開講するなど、気軽に参加できる教室・講座の実施に取り組んでください。 同一人物の複数年受講やメンバーの固定化の問題が挙げられていますが、申込時点で新規受講者が優先されており、生涯学習・仲間づくりという面で許容しても構わないと思います。全ての教室講座が屋内で一緒に長時間過ごすものですから、コロナ禍対策には万全を期して下さい。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	初心者向けの教室・講座として開催しておりますが、同一人物の複数年受講が多く受講生の固定化から運営に悩んでおりましたが、今回の評価内容を受けて、有識者より「生涯学習・仲間づくり」の面から許容してはとの意見を踏まえながら、令和3年度より教室・講座の運営に努めたいと考えております。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	16
事務事業名	地区館教室・講座事業	担当課名	當麻文化会館
係 名	地区館係	施設名	5 地 区 館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	生涯学習社会の構築を目指す一環として、地域において趣味を同じくする人々や教養を身につけたいと思う人々が地区館に通い、自主的な活動を推進する機会を提供するとともに、交流を深め、活動の輪を広げる。				
事業の内容	生涯学習社会の構築を目指す一環として、地域において趣味や興味を同じくする人びとが身近な地区館に集い、学習する活動を支援するとともに交流を深める機会を提供する。 足田、忍海、北花内、磐城、當麻の5地区館で絵画等13教室、俳句の1講座を開講し、教室は5回～13回の実施、講座は6回実施で開講している。 令和2年度において、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部で開講の中止や変更を行った。 受講生の募集は、毎年3月の『広報』とともに各戸配布する『教室・講座ガイド』において、市民に周知している。				
事業対象	市内 在住・在勤者				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3度予算	
		事業費 ①	1,097	946	1,114	
		内一般財源	1,097	946	1,114	
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②	2,135	888	2,000	
		総コスト①+②	3,232	1,834	3,114	
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	各種教室・講座	総回数	125	108	128
	事業 成果	参加人数	人	227	206	242

新型コロナウイルス感染防止のため、4～6月の講座中止。料理教室は6～8月の講座中止。中止講座は、別月に講座を開催したが、全て開催することはできず、減少している。手芸：9回-3回：6回実施予定であったが、講師ケガのため、4回実施となる。民謡閉講：ブリザーブドフラワーの開講が決定し6回実施。

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない	
総合評価	C A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	身近な地区館・分館において生涯学習教室・講座を開催することで気軽に参加受講でき学習意欲の向上と生涯学習の発展に役割を果たしていると考えます。 料理・絵手紙・太極拳・パッチワークの4教室で講座開始後、及び終了前のそれぞれ15分～20分間、また、書道・ちぎり絵の2つの教室については終了までスタッフが同席し講師とも協力のうえ教室の支援をきめ細やかに行うとともに、受講者のニーズの把握に積極的に努めてきた。受講者が学習していく過程において、他の受講生との繋がりをもちながら「学ぶ」という共通項のもと人間関係が築かれ、教室に一体感が生じ、教室・講座をより楽しいものと考えていただくことで学習効果があがっている。			
事業の課題・問題点	毎年継続して受講しておられる方が多数あり、教室・講座での学びを楽しみにされている。同時に学び仲間ができ、その方たちとのふれあいにも楽しみにされている。しかし、平成15年頃から始まった地区館教室・講座であり、約15年以上経過しているが、中には数年講座教室もあるが、ほとんどの教室・講座において、受講生の顔ぶれが変化していない現状である。そこで、教室・講座をクラブ化して、自ら運営して頂く方向にしていかなければならない時期にきていると思う。それが本来の生涯学習ではないかと考える。 また、新講座・教室開設や実施回数の増加等の要望もあるが、新型コロナウイルス感染拡大も含め、受講者数が見込めるのか、予算と場所の関係などもあり、引き続き検討課題事項である。 定員をオーバーした教室・講座もあるが、いずれも僅数であり、講師の好意と受講者の理解により実施することができた。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	地域において趣味を同じくする人々が交流を深め、活動の輪を広げるためにも、住民が気軽に参加でき、学習意欲の向上と生涯学習の進展に寄与していくための身近な公民館活動になるよう、地域の実情を踏まえた各地区館での教室・講座の開催に向けて取り組んだ。また、受講生の方々には、地区館でのクラブ化を図り、自ら運営して頂く取り組みを推進した。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	各地区館によって、教室・講座の偏りがみられる。各地域の学習ニーズを的確に把握することが必要になってくる。講師等の問題もあるが、気軽に参加できる環境づくりに取り組んでください。 高齢化社会です。車移動が困難な方々にとって、中央公民館や文化会館まで赴くのではなく、小学校区にある5地区館での開講は有難いことだと思います。地区館という性質上、受講者の顔ぶれが変わらないことはある意味当然であり、地域のニーズと参加者数によって講座数の差があることもうなずけることがあります。より多くの人に学びの機会を提供し、地区館を地域交流の基点とするために、地区館でのクラブ化という発展的な考えも施設の有効活用になると思います。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	毎年継続して受講しておられる方が多数おられ、教室・講座での学びを楽しみにされており、同時に学びの仲間ができ、仲間同士のふれあいにも楽しみにされています。市民の身近にある公民館において、より多くの方に学びの機会を提供し、地区館を地域交流の基点とするための運営を引き続き行い、今後は、地区館ごとの教室・講座の偏り等の見直しを図りながら、既存クラブへの入部や新たなクラブ・サークルをつくることも提案しつつ、事業の運営に努めてまいります。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	17
事務事業名	文化振興事業	担当課名	新庄・當麻文化会館
係 名	総務係・文化会館係	施設名	新庄・當麻文化会館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	市民に質の高い文化に触れる機会を設け、葛城市芸術文化を発信し、創出する。				
事業の内容	魅力ある文化芸術鑑賞事業・市民参加型事業を継続的に展開することにより、良質な芸術・文化に触れる“きっかけ”や自ら参加する喜びを体感する機会を市民に提供し、地域の文化力向上に寄与することを目的としている。 令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から有料公演は見送り、実施可能な事業を検討し、新庄文化会館では市民劇団「風塾」の定期公演を例年は自由席で実施していたが、今年度は座席数を制限した上で指定席とし、事前申込制にて実施した。また、かつらぎテレビにて、動画を収録し、その後、配信を行っている。 當麻文化会館ではEnsemble Wizによる夕涼みコンサートとクリスマスコンサート、市民劇団「くすのき」の定期公演を、新型コロナウイルス感染拡大の情勢に鑑み無観客公演にて実施した。その際に収録した映像を動画配信やスクリーン上映することにより、市民に鑑賞の機会を創出することができた。これにより、コロナ禍における今後の自主事業展開に向けて確かな手応えとノウハウを得た。				
事業対象	市民及び近隣市町村の住民				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～年度間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
			事業費 ①	13,209	3,231	12,909
			内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	9,508	3,212	9,609
				3,701	19	3,300
			人件費 ②	11,130	6,538	7,622
			総コスト①+②	24,339	9,769	20,531
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	自主事業入場料	千円	3,622	0	3,200
		自主事業委託料等料	千円	8,660	1,299	9,300
	事業 成果	自主事業入場数	人	3,682	243	1,100
		自主事業 (有料)開催数	本	5	0	4
		自主事業 (無料)開催数	本	6	5	4

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない	
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事業の開催や内容を検討しなければならぬ状況であった。両文化会館関係者の理解・協力を得て、座席制限をしておける開催や無観客での実施、またそれらを動画配信するといった新しい方法で行うことにより、例年より規模は縮小したが、市民に芸術鑑賞の機会を提供することができた。このような実施方法やそれに関する反省点も含めた経験は、今後のコロナ禍における自主事業運営において役立つものとする。			
事業の課題・問題点	無観客公演など新しい実施方法は、会館や出演者にとっても初めての試みであった為、スケジュールの調整や本番の進行、広報活動などスムーズにいかない部分もあった。今後の情勢がどのようなようになるかは不明瞭ではあるが、次に同じような公演を行う事があれば、今回の経験を活かしたい。またチケットWeb予約の知名度向上については、令和2年度は有料公演の開催が出来なかったことから、更なる周知には至っていない状況である。今後の情勢を踏まえ、周知に努めたい。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	新型コロナウイルスの影響により有料事業は実施できなかったが、今後も良質な芸術・文化を提供できるよう、大人から子どもまで幅広い年齢層に楽しんでもらえるものを企画していきたい。また、今後ワクチン接種が本格化していくことから、再び有料公演が実施できるようになる時を見据え、引き続き一般財源のみに頼らず、助成金事業等を活用していきながら、集客を見込める自主事業や友の会特典イベントなどを検討していきたい。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	新型コロナウイルスの影響により、事業の内容を検討し動画配信という新しい方法で実施できたことは十分評価できる。今後このような経験を活かし、充実した動画配信に取り組む必要がある。また、来年度も安定した集客の確保に向けて友の会の還元イベントも実施してください。 コロナ情勢下において一番開催が難しい事業ではありますが、無観客動画配信で開催するなど出演団体との連携ができていると感じます。動画配信は出演団体に依存している比率が大きいですから、教育委員会サイドは広報面で一般市民への周知に力を入れないと、事業目的の達成に至らないと思います。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	新型コロナウイルス感染症の影響は、当面続くと予想される為、引き続き感染防止策を講じ安心・安全な施設運営と、感染リスクの抑制を図り、市民が鑑賞、参加できる良質な自主事業について企画・実施して行きたい。また事業の動画配信方法のノウハウを身につけながら、これらに対応できる環境の整備を検討する。動画配信についての広報は、HP・SNSの更なる活用や、館内にインフォメーションディスプレイを設置することにより、幅広い年代の方に興味を持ってもらえるよう努めたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	18
事務事業名	展示（常設展・特別展等）事業	担当課名	歴史博物館
係 名	歴史博物館	施設名	歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～				
	政策目標		歴史・文化と調和的な地域づくり				
	施策目標		歴史や文化の保護・活用を図る				
事業の目的		近年、市民の地域の歴史・文化に対する関心が薄くなってきており、また知る機会も少ない状況にある。しかし、合併により生まれた葛城市の歴史や伝統文化を伝えていく必要がある。そのため、葛城地域の歴史文化を特別展や常設展などの展示会を通してわかりやすく解説・紹介することにより、市民の皆様に愛郷心を育てていただくことを目標としている。					
事業の内容		展示会（年間企画展Ⅰ回・特別展Ⅰ回）の開催、展示図録等の発行。					
事業対象		市民等来館者					
事業年度			区分指定無			年度 ～ 年度 間	

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和元年度決算	令和２年度決算見込み	令和３年度予算
			事業費 ① 内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	2,717	2,142	3,575
				1,586	1,411	2,499
				1,131	731	1,076
			人件費 ②	6,703	5,981	6,544
			総コスト①+②		9,420	8,123
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和２年度実績	令和３年度(目標)
	事業 実績	入館料	円	412,890	231,870	376,200
		図録売上	円	718,450	499,450	700,000
	事業 成果	入館者数	人	4,871	2,331	2,170
		(開催中入館者)	人	(2,836)	(1,124)	(1,000)
		図録売上	冊	1,571	1,012	1,000

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、令和2年5月末まで休館措置がとられた。このことにより、予定していた春季企画展は開催できなかった。 秋に開催した特別展『飯豊皇女と忍海 ―古墳時代の女性像―』は、題材の良さもあり、普段博物館を訪れない人びとの耳目を集め好評であった。また、専門的な方面からの高い評価をいただいた。そのことは、会期中の入館者が一千名を超えたことにもあらわれている。 同時に、展覧会テーマの工夫によっては、さらなるニーズを掘り起こすことが可能であることを示した。			
事業の課題・問題点	①平成30年度から、学芸員1名の状態が継続しているため、引き続き1名の学芸員が、展示会業務を準備し開催している状況がある。 ②学芸員1名での企画は、専門分野が偏り、幅広いテーマでの展示が困難である。 ③当館は、登録博物館として、展示会のみならず普及事業としての歴史講座、学校への教育普及、文化財保存、発掘調査等の業務があり、専門的知識を備えた学芸員が行う必要がある。 現状においても、また後継者の育成においても、博物館の存続には、一定人数の学芸員が必要であるため、学芸員の増員と後継者育成の人事配置について、引き続き検討が必要である。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	1名の学芸員が企画する展示会は、専門分野に特化したものとなり、テーマにおいて、多くの来館者のニーズに応えきれない現状がある。しかし限られた条件のなか、テーマなどに工夫をすることで、来館者増の成果があったことから、今後も継続して取り組んでいきたい。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	本年度も学芸員1名で企画され、専門分野に偏りがあるが工夫を凝らした展示会であり、安定した入館者数を維持していることは、十分評価できる。学芸員の増員及び後継者の育成が必要である。 数年に亘って人員不足の問題が上がっており、解決すべき問題と考えます。ただし、人員確保が一朝一夕で叶わないのであれば、一つの専門分野を突き詰めていくことも戦略といえます。奈良県は考古学の聖地ですし、国内でも考古学遺跡の世界遺産登録が相次いでいます。日本で葛城市歴史博物館だけにしかできないことを試みてはどうでしょうか。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	博物館の主要事業である展示会については、専門への特化もひとつの方策として考慮しつつ、展示内容・テーマ設定に工夫を重ねながら、今後も事業を継続してまいります。 博物館の教育普及活動においては、従前の取り組みを強化してまいります。特に指摘のあった中学生に対しての取り組みについては、課題として積極的に取り組んでまいります。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	19
事務事業名	歴史講座開催事業	担当課名	歴史博物館
係 名	歴史博物館	施設名	歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～			
	政策目標		歴史・文化と調和的な地域づくり			
	施策目標		歴史や文化の保護・活用を図る			
事業の目的		歴史講座等を通じて地域の歴史文化を紹介し、市民が地域の伝統文化等に関心を高め、愛郷心が育まれるようにしたい。				
事業の内容		市民の愛郷心を育むことを目標に、歴史文化講座「葛城学へのいざない」を、年間14回開催する。葛城地域の歴史文化や、その周辺の歴史について、新しい成果をふまえながら、本講座でわかりやすく紹介し、地域の歴史文化への理解を更に深めていただく機会としたい。 また、夏季には高学年児童を対象に、親子で勾玉等の制作とクイズラリーを体験する親子歴史講座を開催する。				
事業対象		市民等来館者				
事業年度		■	区分指定無		□	年度 ～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	単位	令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
		事業費 ①		50	95	174
		内一般財源		50	95	174
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		5,081	4,950	4,717
		総コスト①+②		5,131	5,045	4,891
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	講師	人	13	7	14
		講師報償費	円	50,000	94,660	130,000
		手づくりキット	円			44,000
	事業 成果	参加者数	人	1,452	615	1,260

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和2年度は、予定されていた講座の半数が、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、休講措置がとられた。再開後も、定員90名という制限を設けての実施となったが、いずれも定員いっぱいの申込みがあり、ニーズが高いことを示した。また、講座への市民の参加率が上昇しており、施策目標の実現に貢献していると考えられる。 主な経費である講師謝金については、約半数を当館職員が務めていることと、博物館ネットワーク内の学芸員が相互協力により講師となっただくことにより、経費の削減に努めている。			
事業の課題・問題点	毎年十数回開催する歴史講座において、テーマと講師選定に苦慮している。しかし、他館にない独自性のある講座の開催は県内外を問わず好評で、多くの参加者を集めている。継続して開催するために、葛城市の歴史における新しい学説や新規講師について、ネットワークを通じた情報交換と特に市民の関心を高められる内容となるよう研究する。 また、アンケートなどで寄せられた要望にも、十分配慮して計画立案する必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	一度受講した方には、「講座カード」を発行し、次回以降の申込みについて、簡便かつ気軽にしていただける体制を整備し、より受講しやすい環境とした。また、ホームページ上での掲載方法の再検討や広報を活用し、市民の目に触れる機会を、より増やすこととした。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	博物館ネットワークを有効に活用し、市民の興味・関心を高めるような講座を実施している。また、「講座カード」の発行や啓発活動にも力を注ぎ、気軽に受講できる環境づくりに取り組み十分評価できる。 低予算のまま内容を充実させつつ、新しい試みで利便性を高めて参加者ニーズを創出するなど、ここ数年で都度改善を施し、着実に進化しています。令和2年度はコロナ禍の影響で狙った成果が出せなかったかもしれませんが、長い目で見たとき必ず結果が伴ってくると期待しています。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	引き続き、郷土の歴史文化に焦点をあてた講座の開催と、市民のニーズにこたえる講座となるよう研究に努めてまいります。気軽に受講できる体制については、改善点がないか点検しながら利便性の向上に取り組んでまいります。 コロナ禍により大きな影響を受けていますが、現状の取り組みのなかに、今後の講座開催に役立つ要素があると確信し、事業に取り組んでまいります。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	20
事務事業名	埋蔵文化財等調査事業	担当課名	歴史博物館
係 名	歴史博物館	施設名	歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～			
	政策目標	歴史・文化と調和的な地域づくり			
	施策目標	歴史や文化の保護・活用を図る			
事業の目的	市内地域の埋蔵文化財の保護。				
事業の内容	市内遺跡の範囲確認・保護、記録保存等のための発掘調査を市教育委員会が主体となって実施する。その後、詳細な調査記録をまとめた報告書を作成し、国・各地方自治体・各研究機関へ配布し、埋蔵文化財の保存・研究・活用のために資する。同様の内容を、電子データ化し、一般の方々にも、手軽に閲覧できる機会を設ける。 また、市内遺跡内で開発工事が行われるのに際し、遺跡地の状況により必要であれば、現場にて発掘調査や現場立会等を実施し、調査結果終了報告書等を作成し、県教委へ提出する。				
事業対象	一般事業者・市民				
事業年度	☒	区分指定無	☐	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	令和元年度決算	令和２年度決算見込み	令和３年度予算
			事業費 ① 内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	2,000	2,153	2,000
				500	653	500
				1,500	1,500	1,500
			人件費 ②	4,968	4,187	4,767
総コスト①＋②			6,968	6,340	6,767	
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和２年度実績	令和３年度(目標)
	事業 実績	調査事業	件	6	8	10
		立会等	件	8	6	10
		届出(通知)	件	91	83	60
	事業 成果	調査地	場所	地光寺跡	地光寺跡	地光寺跡報告書作成

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	埋蔵文化財発掘調査事業については、開発に伴う緊急調査のほか、市内における重要な埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の範囲確認や、その遺跡の性格を把握する目的の調査を、国・県の補助を受けて毎年継続して実施している。 令和2年度においては、笛吹地内の古代寺院である地光寺西遺跡で範囲確認調査を実施した。これまで不明とされてきた建物についての知見を得ることができた。			
事業の課題・問題点	市内には多くの有名な遺跡が市内に点在しているものの、現在、埋蔵文化財の発掘調査に対応できる職員は1名しかいない。この1名は、博物館の学芸員業務を兼務しており、埋蔵文化財の調査・研究に対応できる時間が限られている。県内他の市町村に比べて、非常に不十分な人員であることが継続した課題となっている。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	限られた経費と時間のなかで、最大の成果が得られるよう事業に取り組んでいる。その成果は、歴史博物館での展示や講座をとおして、市民の皆様へ還元するように努力している。 数年にわたり継続して、調査業務に対応できる技術職員の増員について要望しているものの、現時点において改善はできていない。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	将来的に埋蔵文化財を保護し十分成果を上げるためには、専門職の増員及び後継者の育成が最優先課題である。 18番事業と同じ人材不足問題を数年来解決できないままであります。葛城市同様に展示と発掘とを併せて行う香芝市が4名体制、五條市が2名体制である中で、県内唯一人口が増加している葛城市が1名体制というのは非常に心許ないです。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見・数値目標等)	埋蔵文化財の発掘調査等の業務は、本市のまちづくりにおいては欠くことのできない事業である。一方で、調査業務に携わることができる専門の職員が兼務で1名という現状は、博物館の業務遂行のうえで大変厳しい状況であり、新たな職掌の追加により状況はより悪化している。 今後も引き続き、人事面での要望と理解を求めていくとともに、関係機関との連携を図りつつ、業務の効率化並びに計画的に事業が遂行できるよう努めてまいりたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	21
事務事業名	各種教室開催事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施設名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上 の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり			
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進			
事業の目的	市民に教室等を紹介し、スポーツに親しむ機会を提供して健康増進を図る。				
事業の内容	市内在住の小学生を対象に、スポーツに親しんでいただくきっかけづくりのため各種教室を開催する。教室の実施対象者のニーズを把握し、できるだけ多くの方の参加を目指す（初心者優先）。 また、教室の参加者が継続してスポーツをしたい場合は総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブ葛城」を紹介する等の橋渡しを行い、スポーツのきっかけづくりという役割を明確化し、スポーツクラブ葛城との差別化を図る。				
事業対象	教室・講座受講者（市内在住・在勤者）				
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	単位	令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
		事業費 ①		1,120	704	868
		内一般財源		1,120	704	868
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		2,299	2,115	2,106
		総コスト①+②		3,419	2,819	2,974
実績と成果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業実績	小学生	千円	714	528	586
		一般	千円	140	-	-
		親子教室	千円	266	176	280
	事業成果	小学生	人	168	123	90
		一般	人	16	-	-
		親子教室	組	44	39	34

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	子どもがスポーツを始める機会や親子と一緒に運動しふれあう機会を提供するという点で非常に重要な事業であり、参加者からは一定の評価は得られている。			
事業の課題・問題点	昨年度までは、教室をスポーツクラブ葛城へ移行することを念頭に事業を行っていたが、スポーツクラブ葛城の方針変更により、教室の移行を中断することとなった。今後は、教室の内容の充実や講師の確保と、スポーツクラブ葛城との差別化を進めることが課題である。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	スポーツクラブ葛城の自主運営独立採算のために、最終的には教室をすべて移行することを目的に事業を行っていた。しかし、スポーツクラブ葛城が、教室数を増やし規模を拡大する前に、少ない教室数でも自主運営独立採算で存続できるスリムな経営を目指す方針に変更したため、今後は本事業を存続させる前提で事業内容の充実及び改善を図っていく必要がある。
-------------------	--

(有 識 者 意 見)

有 識 者 意 見	スポーツクラブ葛城の方針変更により、すべての教室を移行することができなくなったのは残念なことである。今後、スポーツクラブ葛城と切り離して考える必要がある。これからもスポーツを始めるきっかけを提供して健康増進を図っていくために、市民のニーズを把握し、各教室を実施してください。 スポーツクラブ葛城の創設により、初心者向けに特化しています。市内小学生を対象にスポーツの入口を提供しています。スポーツクラブとの役割分担と棲み分けの線引きが現時点ではうまく出来ているのですが、スポーツクラブ側の方針変更が悪影響を及ぼすことを懸念しています。
-----------	--

(方 向 性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	教室の移行については見送ることとなったがスポーツクラブ葛城とスポーツ教室事業で共存し、それぞれがより効果的な活動ができるよう、コミュニケーションをとりながら事業目的達成にむけて検討を進めていく。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	22
事務事業名	各種スポーツ大会等開催事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施設名	新庄第Ⅰ県民運動場他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～				
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり				
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進				
事業の目的	各種スポーツ大会等を企画し市民の参加を促す。					
事業の内容	市民が積極的に参加できる各種大会の開催や後援などを通してスポーツの振興を図り、健康・体力づくりを支援する。市体育協会及び加盟団体とともにスポーツへの関心を高め、生涯スポーツの振興と体力・健康づくり及び技術の向上を図る。 市民体育祭をはじめとする各種のスポーツ・レクリエーション大会等の行事については、参加及び実践意欲の向上をかんがみて内容等を検討し、さらに多くの市民がスポーツに親しむように努める。					
事業対象	大会参加者（市内在住・在勤者）					
事業年度	■	区分指定無	□	年度	～ 年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
		事業費 ①		4,548	236	4,699
		内一般財源		4,548	236	4,699
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		6,767	7,034	6,276
		総コスト①+②		11,315	7,270	10,975
実績と 成 果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	大会事業費	千円	4,548	236	4,699
	事業 成果	大会参加者数	人	8,484	372	8,000

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☒ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☒ できていない
総合評価	C A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和2年度はコロナ禍による緊急事態宣言が発令され、4月5月は社会体育施設閉館からスタートとなりました。それに伴い社会体育行事も出来なくなり、解除後も体育協会等と各種スポーツ大会の実施に向けて感染者状況を注視しガイドライン等のコロナ対策を十分に検討してきましたが、参加される選手、競技スタッフの安全と健康面を第一に考慮した結果、市民体育祭などほぼ全ての体育行事が中止となりました。			
事業の課題・問題点	令和3年度もコロナ禍の終息が見通せないこともあり、引き続き体育協会等と社会体育行事の実施の可否、新型コロナウイルス感染症対策を検討していきたい。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	各種社会体育行事(大会等)や市民体育祭において、種目や内容をさらに工夫・調整して、子どもから高齢者まで気軽に参加できるニュースポーツやレクリエーション性のある競技を増やすこと。また、コロナ禍による感染症対策を十分に協議し、市民が安全で安心して参加できる大会づくりに努めたい。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	残念なことではあるが新型コロナウイルス感染対策により、少年野球のみの実施であった。これからも、各種団体と協議し、市民が気軽に参加できるような大会になるよう企画・運営に取り組んでください。 例年多種の競技大会があり多くの参加者が集う各スポーツ大会ですが、コロナ禍で難しい判断が続いたようです。再開に向けて市独自のガイドラインを策定し、再開への準備を整える時期だと思います。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	令和3年度になり、6月末で春季スポーツ大会及び市民ソフトバレーボール大会が中止となり、市民ソフトボール大会は延期となった。今後も役員の方たちと新型コロナウイルス感染者状況を注視しながら、また日本スポーツ協会の各競技のガイドライン等を参考に競技要項など作成して市民の方が安心して参加できるような大会を開催していきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	23
事務事業名	体育施設の管理運営事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施設名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～						
	政策目標		誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり						
	施策目標		運動の場の形成を通じた市民の健康の増進						
事業の目的		体育施設の安全で効率的な管理および運営							
事業の内容		体育館 4カ所（当麻スポーツセンター体育館、市民体育館、新庄スポーツセンター体育館、いきがい体育館） 運動場 5カ所（当麻健民運動場、新庄第1健民運動場、新庄第2健民運動場、新町球技場、農村広場） テニスコート 3ヶ所（当麻スポーツセンターテニスコート、新町公園テニスコート、屋敷山公園テニスコート） プール 2ヶ所（新庄、当麻両スポーツセンタープール） 上記体育施設の維持管理・運営を職員5名、会計年度任用職員12名で行っている。 施設の老朽化に伴う修繕については、施設管理の方向性を検討し、公共施設のファシリティマネジメントとの整合性を図りながら、計画的な施設の維持修繕を実施する。							
事業対象		施設利用者（市内在住・在勤者）							
事業年度		■	区分指定無		□	年度	～	年度	間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和元年度決算	令和2年度決算見込み	令和3年度予算
		事業費 ①		80,274	165,375	75,006
		内一般財源		79,115	165,020	73,604
		内国・県補助金				
		内受益者負担		1,159	355	1,402
		人件費 ②		12,217	11,534	10,021
		総コスト①+②		92,491	176,909	85,027
実績と 成果	区 分		単位	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度(目標)
	事業 実績	施設管理費	千円	80,274	165,375	75,006
		内修繕、工事費	千円	31,924	130,279	21,416
	事業 成果	施設利用者	人	157,393	105,987	160,000

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	令和2年度は當麻スポーツセンターアリーナに空調設備を設置、旧耐震設計で建築されている市民体育館は耐震他改修工事。新庄スポーツセンターは耐震診断業務委託を実施した。令和3年度では新庄スポーツセンターの耐震改修及び屋根改修設計業務委託を予定している。 今後も施設の老朽化に伴う定期点検や改修工事等を行い、市民が安全で安心して利用していただけるよう努めていく必要がある。			
事業の課題・問題点	市内の社会体育施設は昭和59年の「わかくさ国体」に合わせて建築されており、かなり老朽化している。また体育館は災害時の指定避難所にもなっており、今後も計画的な修繕や改修工事を行う必要がある。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	各施設は職員で定期点検を行い不具合箇所を修繕しているが、利用者からも聞き取りを行い修繕箇所を早期発見し修繕を行うことで怪我や事故等を未然に防ぐように努める。 現在、市内在住在勤者は無料で使用していただいているが、今後は受益者負担の原則に従い使用料有料化の検討を進めていく。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	体育施設は、体育活動及び指定避難所にもなっており、安全で快適に利用できなければならない。そのためにも、日々の点検が重要である。これからも今まで通り、計画的に管理・運営に取り組んでください。また、計画的に維持管理するためにも今後受益者負担の原則に伴う使用料有料化の検討が必要である。 市の施設の多くは昭和の建造物で、老朽化問題が散見します。一方、施設の多くは災害時広域避難施設も兼ねており、避難所としての機能も求められています。東南海南海地震や温暖化による災害リスクが高まる中で、まずは今進めている耐震工事から着実に施設を維持管理することが望まれます。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	利用者が安心してスポーツできるよう、今後も耐震改修事業の継続、施設の定期点検、修繕箇所の早期対応を行う。使用料については、近隣市町の料金を参考にし、教育委員会で協議・検討を重ねていく。	

7. 点検及び評価のまとめ

教育に関する事務の点検及び評価報告書（各事業評価シート）について、教育委員会より以下の意見を受けました。

（1）各事業に対する意見について

事業 No. 1 学校施設トイレ改修工事

生活環境の変化に伴い、年次的にトイレの改修を進めて頂いていることに感謝します。清潔感のある快適な空間は心を癒される場所でもあります。不具合が生じた時は迅速な対応をお願いします。

支援を受けている児童、生徒などのトイレ使用頻度が多くなると予想される中バリアフリーに対応した、（階差や手すり等）設置の有無の確認をお願いします。

今後もしばらく続くであろう感染症対策の視点からも、早期に完了できるよう対応をお願いしたい。

事業 No. 2 学校施設各所改修工事

安全で快適な学校生活を送れることは誰しもが願うところです。施設管理には、常に各学校・園と連携し、早期の対応に努めて頂いています。毎年、新庄小学校附属幼稚園訪問時に話題となっている樹木の件、園の意向も聞き、できるだけ早い処置をお願いします。

昨今、大阪市内で見られる天井の落下等で怪我をされているニュースを聞く事がありましたので、耐震化など進めるとは別に、細かい建物の危険個所のチェックを今後もお願いします。

限られた予算ではあるが、今後も学校現場と十分に連絡を取り合い、長寿命化を視野に入れつつも未然に事故を防止できるようお願いします。

事業 No. 3 小学生スポーツ教室委託事業

コロナ禍で中止せざるを得なかったが、子ども達にとって夢先生との出会いは、将来の夢や目標に向けて成長課程に欠かせない事業と考えます。

非現実的ではありますが、各校の運動会にトップアスリートを招待し、短い時間ではあるが、講話、実技披露など全校生徒、保護者の前で見せていただけたらと考えます。

事業 No. 4 学校給食事業

子どもの心身の成長にかかせないともいえる学校給食事業は、食育への大切さ、重要性が大きな課題でもあります。そうした意味でも、地元産の食材を使った郷土食をとり入れ、添加物の少ない、見た目にもバランスのよい充実した給食の提供を希望します。

最近の学校給食は事業としてはとても安定しているように感じます。今後とも安全と安心の事業継続をお願いいたします。

安心安全な給食の提供は言うまでもなく、地域性や季節感を取り入れたり、行事食を通じ、将来の食生活や健康維持の基礎となる食育にも引き続き取り組んでいただきたい。

事業 No. 5 葛城歌壇短歌大会

市内に二人の偉大なる歌人を顕彰するのにこの事業が生まれたものです。大事に見守っていきたいものです。一般の方は、短歌のわび・さびを知り、興味深く応募に応じて頂いていると思います。一方市民に親しまれ、根付かせるためにも市内児童・生徒への呼びかけ、協力要請に工夫が欲しい。

大会開催を最終の目的とせず、改めて事業の目的を達成できるよう、広い視野に立ち、幅広い年代の市民に受け入れられる工夫を再考していただきたい。

事業 No. 6 読書活動支援・講座

オンライン系図書の普及促進とともに、従来の紙媒体図書の普及バランスも同時にお願いしたいです。

ボランティアの協力はもとより、図書館としても、広報誌でのPRの充実、資料の展示方法、大人向けの事業など新しい利用者の拡大にも努めていただきたい。

事業 No. 7 ブックスタート事業

昨今、幼児、園児の時からインターネット環境下にあるので、親を含め本離れが進む傾向にあるので、今後ともブックスタート事業には、継続をお願いしたいです。

事業 No. 8 電子図書館事業

電子化が進む中で、これからの時代に欠かせない事業である。広く市民に電子図書館の存在を周知して下さい。

時代のニーズにあった電子図書館事業の導入ですが、多くの利便性があるにもかかわらず、市民の方々に周知されていない点が問題でもあります。電子図書と解っていても、いざ利用するとなると疑問がでてきて躊躇されるのではないのでしょうか。説明会などを開催して、取り組みやすい手法を計画していただければと思います。

とてもよい事業と思いますが、評価の中にある市民への啓発、告知等あまり浸透していないと思います。もう少し学校等と連携し促進活動に広く、細かく努めていただきたいと思います。

著作権などにより電子図書そのものの内容拡充は、まだまだです。紙と電子図書との特質などを考え、PR、資料収集に取り組んでいただきたい。

事業 No. 9 成人式式典事業

実行委員会が中心となって企画・運営している成人式は評価にあたいます。今後も成人の力を生かし、ともに高い評価を得られることを期待します。

コロナ禍の中での成人式の開催となり、當麻地区、新庄地区に分かれた式典ではありましたが、久しぶりに学友と会った新成人の皆さんは人生に一度の心に残る思い出として、楽しそうに生き生きとしてみえました。成人式を無事に終えられたことは、スタッフ一同の努力のお陰と大いに評価します。

今年もコロナ感染の様子を見ながら、安全な成人式を行えるようにお願いしたいです。

事業 No. 10 青少年健全育成事業

事業の問題点に、「事業の在り方について考える。」とありますが、私の実感ですが、事業活動のほとんどが子供たちの知らないところで、行われている感じがします。そのため子供たちに近く接するような活動も必要と考えます。

事業 No. 11 学校・地域パートナーシップ事業

有識者の意見に賛同します。

事業 No. 13 葛城アートフェア事業

葛城市は歴史的にも文化的にも誇れる町であることから、「魅力あるまち葛城市」としてのキャッチフレーズはとても良く、期待したいところです。拠点となる當麻寺及び當麻寺周辺地域住民の理解・協力を得られるような方策を考えていただきたい。

事業 No. 15 中央公民館・當麻文化会館 教室・講座事業

税金を投入し行っている事業であるのだから、あらゆる年代が参加できるよう、また、同じことを続けるのではなくその時勢に合った教室内容を提供し、利用者の拡大・更新に努めていただきたい。一定期間を過ぎた利用者の自立、子どもの託児などを行い子育て中の世代への生涯学習の提供など工夫をお願いしたい。

事業 No. 16 地区間教室・講座事業

各地区館によって、開催される教室に偏りがあるように思われます。毎年、募集される教室ですが参加したい教室があっても、地区以外の分館で開催されるため、交通手段や顔ぶれなどの理由で、断念するという市民の方々の声が聞こえてきます。講師先生の確保も大変だと思いますが、各教室が固執することなく開講されることを希望します。

事業 No. 17 文化振興事業

動画配信という取り組みはとても良いと思います。いろんな取り組み等学校現場、子供たちの GIGA スクール構想との連携で視聴できる環境もあれば良いと思います。

事業 No. 18 展示(常設展・特別展等)事業

葛城市の特徴を活かした取り組み、考古分野以外にも近世、近代の葛城市の研究展示も良いと思います。

事業 No. 19 歴史講座開催事業

歴史講座、講師選定に苦慮されているとありますが、歴史の観点上、江戸、明治、大正、昭和などの葛城市の歴史について学ぶ講座等があればいいかと思います。また学校への出張講座の取り組みも考えていただきたい。

市民が本市の歴史を知り、文化財を守る気持ちを持つことにより、葛城市への誇りと愛着を持ってもらうことも、歴史博物館の大きな存在意義だと考えます。様々な機会をとらえ講座を開催していただきたい。そのためにも、職員の増員が無理なら、ボランティアの育成なども考えられてはいかかかと思います。

事業 No. 23 体育施設の管理運営事業

2031年開催予定の奈良国体に向けて、体育施設や選手育成、各活動の整備、誘致活動の準備をしていくことが必要な時期になると思います。

(2) 総評

主要な23事業について、事務局・各機関は「A 評価…3、B 評価…12、C 評価…4、評価不能…4」と自己点検しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により事業の開催中止や縮小などを余儀なくされました。その影響もあり、C 評価「成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い」と判断される事業もあります。改めて、それぞれの取り組み状況を振り返りたいと思います。

今後も、事業の対象となる市民の皆様の満足度を第一に考え、ファシリティーマネジメントに基づいて、PDCA サイクルで事業遂行をしまいたいと考えます。

この事業評価に関わっていただきました有識者の方々には、高い見識と豊かな経験のもとに貴重なご意見をいただきました。本当にありがとうございました。

いただきましたご意見を真摯に受け止め、未来に生きる子どもたちが健やかにたくましく成長できるよう、また、市民の皆様が日々の生活の中に安らぎや喜び、潤いを感じていただけるよう、関係者皆様のご理解とご支援・ご協力を得ながら事業の推進に向けて努力してまいります。

令和3年9月1日

葛 城 市 教 育 委 員 会

